

PRESS RELEASE



やまがたの上質ないいもの。
その魅力をもっと伝えたい。
この新しいブランドマークを旗印に、
山形のいいものの魅力を伝えていきます。

令和7年9月8日

県政記者クラブ報道機関 各位

山形県産業賞委員会事務局
(山形県産業労働部産業創造振興課)

令和7年度山形県産業賞及び山形県科学技術賞受賞者の決定について

本日、山形県産業賞委員会を開催し、山形県産業賞及び山形県科学技術賞の受賞者を下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

1 本年度の受賞者（功績概要は別添のとおり）

山形県産業賞（五十音順：敬称略）

（受賞者）

スズキハイテック株式会社

早坂 剛（はやさか つよし）

吉田 眞一郎（よしだ しんいちろう）

（市町村）

山形市

鶴岡市

山形市

山形県科学技術賞 該当者なし

2 贈呈式

日時：令和7年11月3日（月）午前10時30分から

場所：山形県郷土館「文翔館」

その他：贈呈式は、齋藤茂吉文化賞と合同で行う。

3 賞の概要

目的：本県産業及び科学技術の振興に資するため、県内において産業や科学技術の発展に貢献し、その功績顕著な個人又は団体を顕彰する。

沿革：「山形県産業賞」は、浦本政三郎科学技術賞（昭和37～42年度）、山形県科学賞（昭和44～46年度）を拡大継承して昭和47年度に創設された。昨年度までの受賞者は、個人112名、団体72となっている。「山形県科学技術賞」は、平成2年度に産業賞の特別賞として創設され、昨年度までの受賞者は24名となっている。

問い合わせ先 産業創造振興課 地域産業振興担当 田宮
電話：023-630-3151
広報監 産業労働部次長 遠藤

功 績 概 要 書

1 受賞候補者

住 所 山形市

団 体 名 スズキハイテック株式会社

代表者名 代表取締役社長 鈴木 一徳

2 受賞理由

創業 110 年を超える県内最大手のめっき業者であり、有害物質の使用制限、環境にやさしい代替技術の開発、各国の規制への対応など、環境に配慮しためっきプロセスにおいて、世界トップクラスの技術を持ち、様々なタイプの電動車用部品を中心に事業展開している。次世代自動車の電動化や低燃料化に向けた部品の表面処理などの新規事業や将来の成長分野の研究開発にも積極的に取り組み、開発主導型の企業へと進化を続けている。

地方の抱える少子化・労働人口減少・優秀な人材の確保等の課題に対応すべく、積極的な外国人材の採用・登用を継続するなど、ダイバーシティへの取り組みも顕著である。

3 具体的功績

- (1) 大正3年創業の長い業歴と、革新的かつ高いめっき技術を有する、県内有数の老舗企業である。有害物質の使用制限、環境にやさしい代替技術の開発、各国の規制への対応など、環境に配慮しためっきプロセスにおいて、世界トップクラスの技術を持ち、次世代自動車の電動化や低燃料化に向けた部品の表面処理など、既存のめっき業にとどまらない新規事業への参入に積極的に取り組んでいる。こうした取り組みが成果を上げ、大手自動車メーカーを中心に受注が増加しており、今後も成長が期待されている。
- (2) 医療・ヘルスケア分野・自動運転分野・環境にやさしい生体模倣技術の社会実装といった将来の成長分野の研究開発にも積極的であり、MEMS（微小電気機械システム）や精密電鍍の本格的な研究開発に取り組むとともに、医療分野への事業展開や、生物が持つ微細な構造を工業的に応用し、革新的なナノテクノロジーによる開発を通して、持続可能な社会における循環型経済の推進に貢献すること目指している。
- (3) 地方の抱える少子化・労働人口減少・優秀な人材の確保等の課題に対応すべく、積極的な外国人材の採用及び登用を行うなど、ダイバーシティへの柔軟かつ迅速な取り組みも顕著である。福利厚生制度の整備や家族も含めた生活のサポートの実施、母国の文化を尊重することなどにより外国人が働きやすい職場作りに取り組み、現在では従業員のうち約4割が外国籍で、役職者においても同様の割合である。外国人材の採用により、組織風土も主体的に変化し、新しい技術開発につながっている。
- (4) 事業を通して、地元の雇用維持・増加、地域経済の活性化、本県産業の発展向上に大きく寄与しており、「情熱」と「学習」そして「決意」と「行動」を企業理念とし、伝統の継承と未来への挑戦に社員一丸となって取り組んでおり、今後更なる成長が期待される。

功 績 概 要 書

1 受賞候補者

住 所 鶴岡市
氏 名 早坂 剛
年 齢 86 歳
現 職 株式会社エル・サン代表取締役会長
エルサンワイナリー松ヶ岡株式会社代表取締役社長

2 受賞理由

1971 年株式会社エル・サンを創業し、常に地域や顧客満足を第一義とした理念・発想に基づき、新たな価値創造に取り組んできた。時代のニーズをくみ取った様々な変革を行い、地域の冠婚葬祭事業のレベルを飛躍的に向上させた。

また、エルサンワイナリー松ヶ岡株式会社を創業してワイン事業にも挑戦し、顕著な実績を上げるとともに、新しい産業創生や交流人口増加に大きく寄与した。このほか、各団体の要職に就き地域経済のけん引役として手腕を発揮した。

3 具体的功績

(1) 株式会社エル・サンは結婚式事業に始まり、葬祭事業を興し、和式から洋式への転換など、時代のニーズをくみ取った様々な変革を行い、地域の冠婚葬祭事業のレベルを飛躍的に向上させた。

(2) エルサンワイナリー松ヶ岡株式会社の代表として、2017年の事業開始後、七つの畑に9品種、約9,600本のブドウ樹を植栽し、2024年にはワイン12,000本以上を生産できるまで事業を拡大させた。

2020年には、地元建築と省エネ設計を融合させ、ワイン醸造所・レストラン・ショップ・農園エリアを併設した複合施設「ピノ・コッリーナファームガーデン&ワイナリー松ヶ岡」をプロデュースした。

2025年には、慶應義塾大学や山形大学との共同研究により開発した白ワイン「鶴岡甲州2023」がインターナショナル・ワイン・チャレンジ（IWC）で金賞を受賞し、人間の感性、栽培、醸造の努力、科学的解析による裏付けがマッチしたものと評価された。

松ヶ岡開墾場などの歴史的資源との連携により、地域の農業、観光、文化を一体化した空間を創出し、地域の活性化や街おこしにも大きく寄与した。

(3) 鶴岡商工会議所会頭として、公共事業の地元発注への働きかけを通じた中小企業の振興、中心商店街及び中心市街地の活性化や、官民一体となった観光振興への取り組みなどに尽力した。また、新商工会議所建設に貢献したほか、高速道路の整備促進及び庄内空港の利便性向上などに積極的に取り組み、精力的に地域経済全体のけん引役として手腕を発揮し、長年にわたり本県の産業経済発展に貢献した。

※年齢は令和7年11月3日現在

功 績 概 要 書

1 受賞候補者

住 所 山形市

氏 名 吉田 眞一郎

年 齢 77 歳

現 職 株式会社吉田段ボール代表取締役会長
山形商工会議所常議員、工業ものづくり部会部会長
山形市中小企業連盟顧問
協同組合山形給食センター理事

2 受賞理由

業歴 60 年を超える県内トップクラスの段ボールケースメーカーである株式会社吉田段ボールの代表者として、長年にわたり大手食品関連企業と取引を行うなど、強固な事業基盤を築きながら、地域経済の活性化に貢献している。

代表理事を務めていた協同組合山形給食センターでは、「山形の人に、山形のおいしさを“地産地給”する」をコンセプトに、地産地消の実現に寄与し、地域経済の好循環を支える取組みを行っている。

山形商工会議所の常議員をはじめ多くの団体の役員を歴任し、地域経済のけん引役として手腕を發揮している。

3 具体的功績

- (1) 業歴60年を超える県内トップクラスの段ボールケースメーカーである株式会社吉田段ボールの代表者として、農作物の梱包材を中心に、食品関連企業と取引を行うなど、強固な事業基盤を築きながら、地域経済の活性化に貢献している。また、東日本大震災で避難所に保温のため段ボールを無償提供したことに着想を得て、段ボールの新しい可能性の研究開発も行い、2024年には段ボールによるジョイントマットの製造につなげるなど、市場や社会情勢の変化に柔軟に対応し、業界全体の成長にも寄与している。
- (2) 山形商工会議所では、1991年に議員、2013年に常議員に就任し、現在に至るまで同会議所の運営及び地域産業経済の振興発展に尽力してきた。同会議所の部会活動では、2019年より工業ものづくり部会の部会長に就任し、卓越した見識と指導力により厚い信頼を集め、業界の発展に貢献している。
- (3) 1997年に立谷川工業団地協同組合の代表理事に就任して以来、特に環境保全事業に積極的に取り組み、環境保全委員会を組織し、環境整備に注力した。また、同組合では、漏水が問題となっていた水道管本管の入替え工事を実施へ導き、卓越した指導力を發揮しながら問題解決にあたり、地域振興に尽くした。